

## 研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-137	A-110	24-008	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Alcohol Consumption Patterns and Mortality Among Older Adults With Health-Related or Socioeconomic Risk Factors 健康関連または社会経済的危険因子を有する高齢者におけるアルコール摂取パターンと死亡率			
執筆者			
Ortolá R, Sotos-Prieto M, García-Esquinas E, Galán I, Rodríguez-Artalejo F.			
掲載誌			
JAMA Netw Open. 2024 Aug 1;7(8):e2424495.doi:10.1001/jamanetworkopen.2024.24495.			
キーワード			PMID
高齢者、アルコール摂取、総死亡、健康関連リスク、社会経済リスク			39133491
要 旨			
<p><b>背景:</b> 本研究は、高齢飲酒者におけるアルコール摂取パターンと 12 年死亡率との関連、および健康関連/社会経済的危険因子との関連を検討することを目的とした。</p> <p><b>方法:</b> 2006~2010 年にイングランド、スコットランド、ウェールズで登録された 40~69 歳の参加者を対象とした UK Biobank のデータを用いた前向きコホート研究である。60 歳以上の現飲酒者 135,103 人 (年齢中央値 [IQR]: 64.0 [62.0-67.0] 歳; 女性 50.1%) を解析した。死亡率は、全国死亡登録で追跡調査を行った。平均アルコール摂取量 (g) / 日により、飲酒パターンを、時々 (男性: 2.86g/日)、低リスク (男性: 2.86-20.00g/日以上、女性: 2.86-10.00g/日以上)、中リスク (男性: 20.00-40.00g/日以上、女性: 10.00-20.00g/日以上)、高リスク (男性: 40.00g/日以上、女性: 20.00g/日以上) に分類した。ベースライン時のアルコール摂取パターンと全死因死亡および死因別死亡リスクとの関連について、Cox 回帰分析を用いてハザード比 (HR)、95%信頼区間 (CI) を算出した。</p> <p><b>結果:</b> アルコール摂取パターンが「時々」と比較して、「高リスク」は全死因死亡率 (HR1.33; 95%CI 1.24-1.42)、がん死亡率 (HR1.39; 95%CI 1.26-1.53)、心血管死亡率 (HR1.21; 95%CI 1.04-1.41) の上昇と関連した。「中リスク」は全死因死亡 (HR1.10; 95%CI 1.03-1.18) およびがん死亡 (HR1.15; 95%CI 1.05-1.27) リスクは高く、「低リスク」はがん死亡リスク (HR1.11; 95%CI 1.01-1.22) が高かった。「低リスク」および「中リスク」は、社会経済的危険因子を有する者における全死因死亡 (低リスク: HR1.14; 95%CI 1.01-1.28; 中リスク: HR 1.17; 95%CI 1.03-1.32) およびがん死亡 (低リスク: HR1.25; 95%CI 1.04-1.50; 中リスク: HR1.36; 95%CI 1.13-1.63) リスク上昇と関連した。ワインの嗜好や食事中のみの飲酒は、健康関連または社会経済的な危険因子をもつ者のみ、全死亡リスクが低かった。</p> <p><b>結論:</b> 英国の高齢飲酒において、健康関連または社会経済的な危険因子を有する高齢者では、低リスクの飲酒であっても死亡率の上昇と関連していた。ワインの嗜好や食事中のみの飲酒で観察された死亡率の低下は、健康的なライフスタイル、アルコール吸収の遅さ、あるいは飲料のノンアルコール成分の影響を反映している可能性がある。</p>			